

# らい 来ぶらり51

## たからものを探そう

— 2Fのカウンターから —

「どうやら、私の探している本はこれではないようです。」とやや残念そうな声で先程出してあげた図書を利用者が戻ってきました。フィヒテ著『獨逸國民に告ぐ』永雄策郎訳で講談社の発行と、富野敬邦・森靈瑞訳で玉川大学出版部の出版によるものです。図書館で所蔵しているのはこの二冊でした。

「書名の前にもっと何か副題のようなものが付いていたのです。」とのことですが、二冊ともすっきりとした装丁で何も付いていません。せめて訳者とか出版社とかあるいは出版年でもわかると手掛かりになるのですが。

「見つけたのは、ずいぶん前のことなのです。神田の本屋の店先でね。戦後すぐのころなので著者と書名以外ははっきり覚えていないのです。」

戦後間もないころのこの利用者は、どのような状態のときに神田の本屋街を歩かれたのでしょうか？ 様々な状況を連想することはできますが、久しぶりに訪れた図書館でふっと探してみたくなった一冊の本だとしたら、その本との最初の出会いは強烈なものがあつたでしょうか？

学習院大学にはない『獨逸國民に告ぐ』を図書館2階の参考室の図書を使って探したら、『岩波文庫』『角川文庫』所収を始めとして何点も見つけることができました。「国立国会図書館」で所蔵していれば取り寄せて大学図書館で利用できます。データベースを使って他大学図書館の蔵書も調べられます。

だけど、それよりも何よりも宝探しをしてみませんか！ 図書館で！ さきほどの年配の学習院講座受講生の利用者のように！ これからずつとずつとあとにひよつとすると宝物になるようなそんな本との出会いをつくれるかもしれません。

(参考係 甲斐静子)

## 見た目も必要か？

SP174½、BKF13、VC76X、これが何かわかりますか。パソコンのパスワード、銀行の貸金庫の暗号、どちらも違います。これは製本する際のクロス（カバー）の色の記号なのです。

図書館で雑誌のバックナンバーを利用した事のある人は経験があるかもしれませんが、基本的に雑誌のバックナンバーは合冊製本して登録し、利用されます。そこで利用者の中には自分のイメージしている雑誌の顔と製本された雑誌のギャップに一瞬驚く人もいます。

たとえばSP174½は濃紺で雑誌の多くはこのクロスを使用しています。BKF13というのはエビ茶色、VC76Xは黄土色で改装（修理）製本などでよく使います。SPとかVC

というのはクロスの強度を表し、事典など利用頻度の高いものは強いものを選びます。

クロスの色の選択は、原則として雑誌はSP174½なので問題はありませんが、図書などの改装製本の場合は多少頭を悩ませます。基本的には元の表紙に近い色を選びますが、サンプルにそれに近い色がないと違う表情になってしまいますし、サンプルの色と出来上がったものが随分とイメージの違うこともあります。

ところでCMではないけれど本も見た目が利用の重要なポイントになっていて、今まで余り貸し出しされなかったものが、製本後中身は全く同じなのに頻繁に利用されるようになると複雑な心境になります。やっぱり見た目も必要という事でしょうか。

（雑誌係 北村 誠）

## ちよっと書庫までINタビユ〜 1

### 大学図書館の貴重書

—今回は大学図書館で所蔵している貴重書について、越川孝昭運用課長にインタビューしてみました。

**編集委員：**大学図書館では、どのようなものを貴重書として扱っていますか？

**越川課長：**1623年以前の和書、1572年以前の漢籍・韓本、18世紀以前の洋書、およびそれ以後でも伝本が少なく資料的価値のあるもの、といった基準をもとに指定しています。

**編：**例えばどのような資料がありますか？

**越：**和書では、伊能忠敬の地図、『栄華物語』、『本草図譜』、正岡子規の自筆書簡、三島由紀夫の自筆原稿（『王朝心理学小史』）など約60点があります。洋書は、古くからの蔵書の中から、基準に合ったものを選び出しています。

**編：**購入はしていますか？

**越：**いいえ。残念ながら、図書予算が少なく

編集委員が、学内で所蔵している貴重な図書資料について訪問取材する新しいコーナーです。

まず手始めは、やはりここです…。

買えません。

**編：**どこに置いてありますか？

**越：**大学図書館の書庫の中にコーナーを設けています。

**編：**実際に見ることはできますか？

**越：**特に必要な場合に限ってですが、館内でだけ閲覧することはできます。

**編：**閲覧の手続きは？

**越：**まずは、原本を直接見る必要のある旨を記載した「指導教員の添状」が要ります。（書式は特にありません。）それを持って1階カウンターに申し出、図書館所定の「貴重書閲覧願」用紙に記入し、提出します。そして図書館長の許可があれば閲覧する日時（願提出の翌日以降）を希望し、それによって指定された日時に館内（2階参考室あるいは3階特別閲覧室）で閲覧することができます。

**編：**資料を検索していて、それが貴重書であるか

▶本のリクエストをどうぞ。読みたい本が図書館になかったら購入希望を出してみてください。

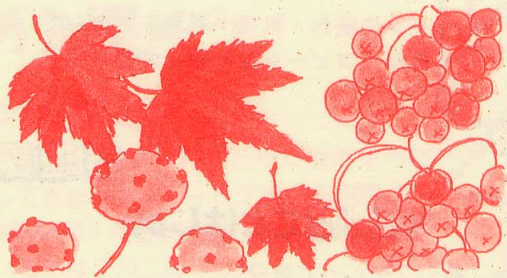
## 真っ赤な秋

木の葉や実が色づき始めると、秋も深まってきたことを実感します。学習院構内の樹々は本当に立派なものが多く、四季折々に目を楽しませてくれますが、わけても秋の美しさは格別です。桜やケヤキのつましい紅葉も綺麗ですが、晩秋のおすすめは、テニスコートのわきを抜け、職員住宅側へと下る急な坂道。傾斜に添って立つ楓の葉が、陽を透かして紅くさざめく景色は、紅葉狩りの山を思わせて趣があります。同じころ、朱色の実を落とすのは、背高のっぼのイイギリ。ぶどうの房のように粒々となつたまま、道に散っているのとても目立ちます。この木は図書館や南3号館、乃木館付近などあちこちにありますが、散歩がてら拾ってきて飾ってみるのもよいでしょう。この実は残念ながら食べられませんが、法経棟の正面入口に面したヤマボウシの丸い実は、紅く熟すと甘い香がして、なかなか美味しいのです。この木は植えられてまだ年浅いのですが、いずれ大木となるようしっかり根づいてほしいものです。

しんとした金木犀の香が漂ってから、コブシの朱い実は白い糸を引いて垂れ下がり、メタセコイアの葉はやさしい赤茶色に染まり、アオキの実飾り物のように、つやつやした赤色に光り出す。こうして羅列するだけで、目白の森の豊かさがしみじみ感じられます。木漏れ日のように明るい銀杏の黄色もよいけれど、ハッと目をひかれるのは、やはり紅の魔力です。

樹々が染まり始めたら、みなさんも少し視点を変えて、そぞろ歩きを楽しんでみませんか。植物のひそやかな変身が、感じられると思います。

(法経図書センター囑託 東 史)



### どうかの判別はできますか？

越：カードの左上に「貴重書」と記されている場合があります。記されないで貴重書扱いになっているものもあります。端末では、まだデータが入っていないので今のところ出てきません。

### 編：どの程度利用されていますか？

越：利用頻度は非常に少ないですが、資料を保存していくためにはやむを得ないことと思います。

### 編：保存のために何をしていますか？

越：空調設備により、書庫の温度・湿度を一定に管理して資料の劣化を防いでいます。また、本にナフタリンペーパーをはさんで虫食いを防いでいます。

### 編：今後保存のために何か考えていますか？

越：古い複製本図書の革の劣化を防止するため、HPC(ヒドロキシ・プロピル・セルロース)

をアルコールに溶かして塗り、乾いたら、その上に保革油を薄く塗ります。

なお、常に環境整備に心掛け、定期的点検を行い、大切に保存して行きたいと思えます。

### 編：本がこわれた時はどうしていますか？

越：外注で製本修理してもらっています。

### 編：今後「貴重書展示」の企画などはありますか？

越：特にありませんが、館内の展示コーナーで、企画上必要に応じて部分的に紹介できるくらいでしょう。

### 編：そうですか。(ちよっと残念…)

ありがとうございました。

※大学図書館の貴重書は、館内展示コーナーのほか、「来ぶらり」でも時々紹介しています。

▶大学祭期間中も図書館は利用できます。平日16:30まで、土曜日12:00まで開館します。

## 本のお医者さん

「この本借りたいのですが破れています」と利用者からの指摘。書架からは「痛い、痛い」と傷んだ本たちが訴えています。

こうした本を図書館職員が診断し、その結果、比較的症状の軽いものについては図書館内で手当てをします。そして、私たち職員の手には負えないものは製本業者に修理を依頼するので。

図書館内でどの程度の手当てをするかを記してみます。

1. **ラベルのはがれたもの**：タイプでラベルを打ち背表紙に貼ってビニール糊で補強します。
2. **ページの破れ・脱落**：資料を所蔵している館からコピーを取り寄せ修復します。

3. **背表紙のはがれ・表紙の破れたもの**：簡単なものは糊などで修理し、フィルムルックス（透明な補強用接着カバー）をかけます。背表紙や表紙の一部がなくなっているものは、簡易製本をおこないます。この場合は、表紙・背表紙を新しく作り直すのでかなりの手間がかかります。

手当てを必要とする程利用される本は幸せ者ですが、困ったケースとして、自然の破損ではなく、ページや表紙の破り取り、特に最近目につくのが、表紙に貼ってあるバーコードラベル（大学図書館の所蔵を示す受入Noなどの情報を盛り込んだもの）の部分破り取られることが多くなりました。

図書館の資料は一個人のものではありません。取り扱いには充分気をつけてご利用ください。（運用係 上野しのぶ）

### GLIMことはじめ

「新システムって何？」

利用者にとって、検索しやすくなるとは、聞いていましたが、実際、事務処理をする側は使いこなすことができるのかと、不安ばかりの毎日を送っていました。そしてその日が…

起動の仕方、マウスの使い方など、端末1台に整理課全員が集まり、戦いの火蓋は切られたのです。今まで、プリンターの音だけが、やけに響いていた部屋が、まるで学生の教室のように、にわかには活気づいてきました。

「こうしてみよう。ああしてみよう。」

まだまだ、試行錯誤の毎日ですが、より多くの資料を検索することができ、みなさんの知的好奇心を満たす手助けができるよう、頑張っています。ぜひ、図書館へ足を運んでみてください。（アルバイト 宮川真樹）

### 愛すべき洋書たち

ゆつくりお付き合いする間もなく、彼らは義務的に自己紹介をするだけで、慌ただしく登録を済ませて行ってしまふ。かと思えば、なかなか素性が込み入って悩ませてくれる困ったお方もいらつしやる。

気難しく複雑怪奇なドイツの方、優しくだけれど肝心なところがあまいなフランスの方、etc. …個性あふれる面々である。

手のかかるお方ほど印象深く、登録を終えて去って行くのを「頑張ってるね」と見送りながら柱の陰でホロリと…する暇もなく次のお方との応対が始まる。「しがない商売やね」とつぶやいてみるが、実は結構役得でもある。

所定の本棚に収まった、見覚えのある背表紙を見付ける時、「元気でやってる？」とつい声をかけたくなる。（洋書係 篠原三佳）

FUKUGAMI  
福紙一句  
虫がある道をさける  
朝のたため 故紙

来ぶらり No51 1995年10月1日発行

発行責任者：森田道也 編集委員：篠原三佳 富田正貴  
学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1

☎03(3986)0221